

**業務用 17 型 4K ディスプレイ「DP-V1710/DP-V1711」を高輝度化
新たなファームウェアの有償アップグレード対応を開始**

キヤノンは、業務用 4K ディスプレイ 2 製品 (DP-V1710/DP-V1711) を対象に、高輝度化を実現するファームウェア^{※1}の有償アップグレード対応を 2020 年 6 月下旬に開始します。これにより、HDR 化が進む映像制作現場のニーズに応えます。



DP-V1710/DP-V1711

今回、ファームウェアを提供する業務用 17 型 4K ディスプレイは、6G-SDI 端子搭載の「DP-V1710」(2017 年 2 月発売)と、12G-SDI 端子搭載の「DP-V1711」(2018 年 4 月発売)の 2 製品です。4K の高画質性能を持ち、映像制作に求められる HDR 表示に必要な各種規格や方式に対応しながら、持ち運びが可能な小型サイズを実現し、撮影現場や放送局、中継車などで活用されています。

映像制作業界では、HDR 化の流れに伴い、映像の最終画質確認を行うリファレンスディスプレイのみならず、撮影現場で用いられる小型・軽量のディスプレイにおいても、高輝度化のニーズが高まっています。こうした背景から、キヤノンは業務用 17 型 4K ディスプレイ「DP-V1710/DP-V1711」を対象に、最大輝度が向上するアップグレードライセンス (有償) を提供します。

今回の新たな有償アップグレードを適用することで、ディスプレイに「ブースト(コントラスト)」設定が追加され、「オン」選択時^{※2}に最大・全白輝度が 300 cd/m²から 1,000 cd/m²^{※3}に向上します^{※4}。また、「オフ」選択時はローカルディミング制御となり、最大・全白輝度が 300 cd/m²から 600 cd/m²^{※3}に向上します。これにより、高輝度部の階調表現力が向上し、明るい撮影現場、スタジオや中継車などで高輝度の映像を確認する際に役立ちます。

今回の有償アップグレード対応により、最大・全白輝度 2,000cd/m²を実現した 31 型の「DP-V3120」(2019 年 11 月発売)から、17 型の 4K/HDR ディスプレイまで、31 型、24 型、17 型の 4K/HDR ディスプレイのラインアップで HDR 映像制作に関する規格や運用ガイドラインで定められている 1,000 cd/m²を満たす高輝度 (最大・全白輝度) を実現し、撮影から編集まで 4K/HDR 映像制作のワークフローを強力にサポートしていきます。

キヤノンは今後も、ファームウェア提供により既存製品の機能を向上・拡充し、ユーザーの利便性を高めていきます。

※1 製品本体を制御するためのソフトウェア。

※2 バックライトの発光量を画面全体で制御するグローバルディミング制御となります。

※3 輝度値は、AC 電源駆動時の標準値で保証値ではありません。

※4 2018 年 6 月に提供した有償アップグレードを適用済みの場合は、「ブースト(コントラスト)」設定が追加済み。今回の有償アップグレードの適用により、「オン」選択時に最大・全白輝度が 600cd/m²から 1,000 cd/m²に向上。

* 詳細については、キヤノンのディスプレイホームページをご参照ください。